

LifeKeeper for Linux v8.3

テクニカルアップデートインフォメーション



1.	はじめに	3
2.	LifeKeeper for Linux v8.3 の新機能・機能変更	3
●	新規サポート OS・仮想環境の追加	3
●	新機能	3
●	LifeKeeper Core の機能追加・変更	4
●	Recovery Kit の機能追加・変更	4
3.	重要なバグの修正	4
●	Oracle Listener リソースの開始/停止の際に不必要なエラーログが出力される点を 解消しました。	4
4.	お問い合わせ	5
5.	免責事項	5
6.	著作権	5

1. はじめに

本文書では LifeKeeper for Linux v8.3 (SIOS Protection Suite for Linux v8.3/SPS v8.3) での新機能や機能変更、また、重要なバグ修正に関する概要をまとめたものです。それらに関する詳細な情報につきましては、リリースノートやオンラインマニュアルをご確認いただくか、ご契約の製品サポートにお問い合わせください。

2. LifeKeeper for Linux v8.3 の新機能・機能変更

- 新規サポート OS・仮想環境の追加
 - ✓ Unbreakable Enterprise Kernel Release 3 for Oracle Linux がサポートされました。
その他サポート OS や仮想環境につきましては、リリースノートの内容を確認ください。

- 新機能
 - ✓ 異なる Region 間での HA クラスタ構成をサポートします。
Amazon Web Service 上の異なる地域に配置されている Region 間で HA クラスタを構成することができます。これを「Amazon EC2 Cross Region」構成としてサポートします。Amazon EC2 Cross Region 構成では、バックエンドサービスの Oracle12c を冗長化する構成をサポートします。
これを実現するため、Region 間の VPN 接続を監視する「Openswan Recovery Kit」と、仮想 IP アドレスを使用した A レコードの更新を行う「Route53 Recovery Kit」が新たに作成されました。詳細につきましては、SIOS テクニカルドキュメントサイトにございます、「Amazon EC2 Cross Region クイックスタートガイド」をご確認ください。なお、Openswan Recovery Kit と Route53 Recovery Kit は Amazon EC2 Cross Region 環境でのみ利用できます。

SIOS テクニカルドキュメントサイト

<http://jpdocs.us.sios.com/>

- ✓ HULFT Recovery Kit と HULFT-HUB Recovery Kit をリリースしました。
株式会社セゾン情報システムズ様の製品であるデータ連携ソフトウェアの「HULFT7」と HULFT によるデータ連携を効率化し、運用の自動化を実現するデータ連携運用基盤である「HULFT-HUB」を LifeKeeper で冗長化するためのオプション製品として「HULFT Recovery Kit」と「HULFT-HUB Recovery Kit」が製品としてリリースしました。

- LifeKeeper Core の機能追加・変更
 - ✓ lkstop -n の振る舞いを v8.0 以前と同じ動きに変更するオプションを追加しました。
lkstop コマンドの -n オプションを使用すると、v8.0 以前では、Shutdown Strategy の設定に関わらずリソースの切り替えが行われるようになっていました。v8.3 では、lkstop -n を実行した際の動作を v8.0 以前のものにチューニングできるように機能を追加しました。
lkstop -n オプションの動作を v8.0 以前の動作にするには、/etc/default/LifeKeeper ファイルに「LKSTOP_FAILOVER_N=1」を追記します。Lifekeeper や OS の再起動は必要ありません。
- Recovery Kit の機能追加・変更
 - [Postfix Recovery Kit]
 - ✓ 指定できる Listen アドレスが増えました。
これまで main.cf の inet_interfaces には LifeKeeper で保護された仮想 IP アドレス 1 つだけしか設定することができませんでした。これに、複数の IP アドレスを指定できるようになりました。また、全てのアドレスを Listen するように "all" を指定することもできるようになりました。
 - [Recovery Kit for Zabbix]
 - ✓ Zabbix 2.0 と 2.2 が新たにサポート対象となりました。

3. 重要なバグの修正

SPS v8.3 で修正されたバグの中で重要と思われる修正についてピックアップします。その他 v8.3 で修正されたバグの一覧につきましては、v8.3 のリリースノートをご確認ください。

- Oracle Listener リソースの開始/停止の際に不必要なエラーログが出力される点を解消しました。
これは、以下の URL で公開されている事象に対する解決策となります。

[Linux] リスナーリソースの起動、停止時のログについて
<http://lk.sios.com/?p=2650>

Oracle リソースが起動する前や停止した後に、内部処理として Oracle の起動状態を確認する処理が行われています。その際、その実行タイミングでは停止している状態が正しいにも関わらずエラーメッセージとしてログに出力しておりました。(ただし、停止や起動などに影響はありません。) このメッセージが出力されないように修正しました。

4. お問い合わせ

本ドキュメントの記載内容について、疑問点等がある場合は弊社サポート窓口までお問い合わせください。なお、お問い合わせの一次窓口が弊社ではない場合があります。サポート証書にてサポート窓口を確認のうえ、適切なお問い合わせ窓口にお問い合わせください。

<http://www.sios.com/products/bcp/lkdk/contact/>

5. 免責事項

- 本書に記載された情報は予告なしに変更、削除される場合があります。最新のものをご確認ください。
- 本書に記載された情報は、全て慎重に作成され、記載されていますが、本書をもって、その妥当性や正確性についていかなる種類の保証もするものではありません。
- 本書に含まれた誤りに起因して、本書の利用者に生じた損害については、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- 第三者による本書の記載事項の変更、削除、ホームページ及び本書等に対する不正なアクセス、その他第三者の行為により本書の利用者に応じた一切の損害について、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。
- システム障害などの原因によりメールフォームからのお問い合わせが届かず、または延着する場合がありますので、あらかじめご了承ください。お問い合わせの不着及び延着に関し、サイオステクノロジー株式会社は一切の責任を負うものではありません。

6. 著作権

本書に記載されているコンテンツ(情報・資料・画像等種類を問わず)に関する知的財産権は、サイオステクノロジー株式会社に帰属します。その全部、一部を問わず、サイオステクノロジー株式会社の許可なく本書を複製、転用、引用、公衆への送信、販売、翻案その他の二次利用をすることはいずれも禁止されます。またコンテンツの改変、削除についても一切認められません。本書では、製品名、ロゴなど、他社が保有する商標もしくは登録商標を使用しています。